

平成16年度 試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 20 ※記入不要	<b>提案機関名</b> 横浜川崎地域農業改良普及センター
<b>要望問題</b> トマトの品種比較	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】  横浜市南西部地域においては、市場出荷、契約出荷、直売と様々な形態の出荷体制がとられているが、特に半促成の作型のトマトについては経営の主となる作目となっている。 近年、各社から新品種が発表され、現在、主たる品種は、「桃太郎」系や「ハウスおどりこ」など様々な品種が栽培されており、どの品種を栽培するか迷う生産者が多く見られる。 そこで、経営の安定化のため、病虫害抵抗性、収量性、果実品質（裂果、軟果）などを明らかにし、トマトの各出荷形態に適応した優良品種の選定をする必要がある。 しかし、現場においては、同一条件による様々な品種の比較は困難であるため、農業総合研究所圃場で試験を行っていただきたい。  横浜市内の施設トマト生産面積 31ヘクタール	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>研究対応区分</b>	①研究所対応    ②委託研究    ③共同研究    ④その他
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業総合研究所（②根府川試験場 ③三浦試験場 ④津久井試験場） ⑤畜産研究所 ⑥水産総合研究所（⑦内水面試験場 ⑧相模湾試験場） ⑨自然環境保全センター

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業総合研究所
部 署：	生物資源部・生産技術部
<b>対応区分</b>	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合) 優良種苗の特性検定試験
<b>対応の内容等</b>	これまでに品種育成の過程で市販されている新品種についての個別に検討してきましたが、同一条件での検定ではなかったことから、促成～半促成作型で対応させていただきます。
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
<b>備考</b>	